

天溪 2019 「パタゴニア・パイネとフィッツロイ 15 日間」

天溪今年最後のツアー「パタゴニア・パイネとフィッツロイ 15 日間」を 11 月 28 日～12 月 12 日に行いました。パタゴニアは南アメリカ大陸の南緯 40 度付近を流れるコロラド川以南の地域の総称で、その代名詞は偏西風が引き起こす強い風。その風はアンデス山脈にぶつかり、チリ側に大量の雨・雪を降らせて大氷原を造り、アルゼンチン側は山脈を越えた乾風により半砂漠状態にしています。ツアーはパタゴニアの南端、南緯 50 度付近にあり、標高 3000m を越すパイネやフィッツロイの山々の周辺をトレッキングして来ました。今回は前回と逆回りにチリの首都サンチアゴから入り、パイネやフィッツロイを巡った後、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスから帰国するスケジュール。出発前にチリの暴動やアルゼンチンの通貨危機など悪い話がありました。ニュースは概して尖った部分を伝えるのか現地ではさほど雰囲気を感じませんでした。



(フィッツロイ 3405m)

○南米最南端

はるばる日本から約 30 時間かけて到着したチリは日本でも有名なワインの一大産地。首都サンチアゴ郊外のワイナリー (INDOMITA) で前祝して「最果ての地」パタゴニアに向けて南下しました。パタゴニアの語源は諸説有り、探検家マゼランが「大足のパタゴンが住む土地」と言う事で名付けたとも言われています。最初に向かったプンタアレナスは南緯 53 度。日本ではマゼラン海峡に面した未開で荒涼の地と思われがちですが、人口約 13 万人と結構大きな街で、南極観光ツアーの出発地にもなっています。パイネ国立公園の起点の街プエルトナタレスを通り、最初のトレッキングポイントのパイネグランデに向かいました。



(プンタアレナス)



(パタゴン像)



○パイネ

この時期は夏の始まりで、気温は5度～15度程度ですが、氷河から吹き降ろす風は気温の割に冷たく感じます。低木の草原が風に揺れ、谷合に濃緑の南極ブナの原生林が茂り、パタゴニアの花々が美しく咲いていました。今年は夏の訪れが半月ほど遅れているのか南米固有種のフトロの花が素晴らしく、裾野を紅く染めていました。辺り一面を紅に染めるこの花を形容すれば日本のツツジや欧州のアルペンローゼの花と言った所でしょうか。



(パイネグランデ前山)



(フトロの花)





○パイネの岩峰

4泊5日パイネトレッキングの最後は3岩峰のトーレス・デル・パイネ足下の氷河湖へ。ロッジ出発時は穏やかだった天気は何故か氷河湖手前の最後のガラ場を登る辺りで急変し、岩峰を展望する氷河湖に着いた時は強風荒れ狂うパタゴニア模様。所が下山してロッジに辿り着く頃は再び穏やかな晴天に。何とも皮肉な天気でしたが、これもパタゴニアの厳しい自然現象の一つでしょうか。



(トーレス・デル・パイネ)



(ニエト山 2668m)





(グアナコの群れ)

○ペリト・モレノ氷河

パインェからフィッツロイに移動する途中でペリト・モレノ氷河を観光しました。ボートクルーズによる氷河観光はパタゴニア観光の目玉の一つですが、私達は移動中の寄り道。所でこの氷河は南北 300Km の大氷原から流れ出す大小 300 近い氷河の一つで全長 35Km、幅 4Km。氷河末端の位置が変わらないので温暖化している今も発達している様に言われますが、氷河の厚みは減っているそうです。(諸説有り) この氷河は動きが早く、その結果観光船から氷河末端のセラック(氷柱)が轟音と共に崩壊する様を運が良ければ見る事が出来ます。



○フィッツロイ

フィッツロイ(3405m)は巨大な岩峰で垂直に聳えるその壁は高さ 1000m 以上。その岩峰を氷河湖越しに見る絶好の展望地まで片道 10.5Km のハイキングに出かけました。朝 6:30 出発、岩峰上部は雲に隠れてその全容を見せてくれませんでした。展望地に到着して暫くすると大自然の幕開けの様に雲が切れて頂上が見えました。



(フィッツロイ)



○セロトーレ

セロトーレ(3102m)はフィッツロイの南西に隣接する奇岩の岩峰。たいして離れていないのに気流の影響か雲が湧きやすく、フィッツロイに比べ姿を見せません。フィッツロイの翌日、片道 9Km の展望地へ行きましたが頂は雲の中。そんな時は良い事も有り、奇妙な哺乳類のアルマジロが出現。亀の様な甲羅を纏ったこの動物、結構早歩きでトレイルを案内してくれました。



(フィッツロイ連山)



(アルマジロ)



○ブエノスアイレス

旅の最後は首都ブエノスアイレスへ。この時期には高温で気温は 35 度、パタゴニアの低温に慣れた身に堪えました。

写真左:ヒルトンホテル、ここで東京オリンピックが決定しました。

写真中央:アルゼンチン名物のビーフステーキ、メインディッシュは 1 ポンド(453g)。味も良く、驚く事に皆様は全 4 回完食しました！

写真右:南米原産ジャガランダの花、薄紫の綺麗な花です。



今年の天溪ツアーはこれを持ちまして全て無事に終了することが出来ました。皆様のご愛顧を心より感謝申し上げます。来年のツアーは同じ南半球のニュージーランド、1月15日発「ミルフォードトラックとマウントクック10日間」で始まります。

2020年も何卒、宜しくお願い申し上げます。